竜中だより

校訓　自律　協力　創造　勤勉

NO　10

令和４年 10 月 20 日発行

学校ホームページ　http://ryuyo-j.city-iwata.ed.jp/

ゆめ・こころざし講座　～ホンモノから学ぶ～

10 月 13 日（木）に、「ゆめ・こころざし講座　～ホンモノから学ぶ～」と題し、東京オリンピック代表、リオデジャネイロオリンピック陸上 4×100m リレー銀メダリストの飯塚翔太さんをお招きし、講演会等を行いました。講演会では、目標をもつこと、前向きに生きること、チャレンジすること、うまくいかないときの気持ちの変え方など、飯塚さん自身のエピソードを交えながら分かりやすくお話ししてくださりました。「失敗は自分が成長するとき。嬉しさのためのエネルギー」「ハプニング大歓迎」「ＴＴＭＴ（友達の友達はみな友達）」「できるできないではなく、自分がやりたいからやる」「成功することばかりじゃない。たまに成功するからうれしさが倍増する」「感謝することが大切」など、生徒の心に残る言葉がたくさんありました。

その後はグラウンドで走ることや体の動きに関する実技指導、代表生徒との競争など、楽しく生徒と触れ合っていただきました。放課後は陸上部の生徒に走ることの動きづくりについて指導していただきました。生徒たちは、メダリストである現役選手と間近にふれあい、生き生きと目を輝かせていました。生徒たちにとって、とても貴重な時間となりました。

【生徒たちの感想から】

- 「失敗は学びである」という言葉が心に残った。これから失敗することもたくさんあると思うけど、言葉を思い出して立ち直っていきたい。
- 「負の流れを変える」というお話で、自分も部屋の物の位置を変えるなど、やってみたいと思った。
- 「失敗するときは自分が成長するとき」だと教えていただいたので、自信がもてた。これから先、何か失敗をしても前向きに考えて、人生を楽しんでいけるように頑張りたい。
- 「世の中うまくいかないことの方が圧倒的に多い。たまに成功するからうれしさが倍増する」と聞いてその通りだと思った。うまくいかなかったときは「うまくいっている」という気持ちをもって前向きに取り組んでいきたい。
- 何事にも楽しんで取り組み、夢をかなえられる人になりたいと思った。
- 今日の話を聞き、飯塚選手のような意識をもてる人になるという目標ができた。

10/19　会礼　校長の話

９月のはじめに、学校に山本さんという方からお電話がかかってきました。お電話の内容は「かつて竜洋中に勤務した佐野敬子さんという方が描いた絵が竜洋中にあれば見せていただきたい。畳二畳分ほどもある大きな絵だ。」というものでした。そのような絵であれば、多目的ホールにある大きな竹の絵ではないかということになり、絵の落款(らっかん)（絵に捺された作者のはんこ）を調べてみました。予想通り、あの竹の絵が、かつて竜洋中で国語の先生をされていた佐野敬子さんの作品であることがわかりました。後日、山本さんをはじめ佐野敬子さんのご家族の方々が３人で学校にお見えになりました。ご家族の方々もあの絵を初めてご覧になったとのことで感激をしてくださいました。この時に佐野敬子さんがお書きになった「水墨画と私」という文章を紹介していただきました。絵にまつわるエピソードが詳しく書かれていますので、皆さんに紹介します。

水墨画と私

磐田市　佐野敬子

前々から私は水墨画に何となく心ひかれていました。それは、墨一色でありながら見る人に無限の色と深い色彩を感じさせる不思議な力を持っていました。すばらしい墨色を目の前にすると何故か心の落ち着きを感じました。

ある年の秋、東洋水墨美術協会会員による展覧会を見せていただく機会を得ました。そしてその美しい作風に私は心ひかれるものがありました。その上、温厚誠実な先生のお人柄にふれ、本格的に水墨画を学ぶ決心をし、同協会の会員とさせていただきました。それ以来どんな忙しい時も心を静かにして筆を持つことが私の日課となりました。

昭和６１年度に、勤めていた竜洋中学校の平田校長先生から、「新校舎に設けられることになっている多目的ホールの壁面に掲げる絵を描いてくれないか。」とのお話をいただきました。

突然のお話で驚き、聞けば畳二畳もの大きな絵とのことで、今までに描いたこともなく、ずい分迷いました。しかし、一生の中に二度とない機会を与えてくださったことも有難く、思いきって描かせて頂こうと決心しました。

題材を何にしようかといろいろ考えましたが、最終的に「竹」とすることに決めました。それは、ひとりひとりの生徒が、目的を持って大空に向かって真直ぐに伸びて行くようにとの願いをこめたいと思ったからです。それを力いっぱい墨の濃淡と滲み(にじみ)掠れ(かすれ)により表現しました。

私の描いた竹の絵は、滋賀県の信楽(しがらき)の里の工場で美術陶板となりました。そして、大がかりな装置と大勢の工事担当者の手により、見事に完成したホールの壁に高く飾られました。その時の夢のような、胸のしまる思いはいつまでも忘れることはできません。このことは、私の第二の人生の道しるべとして、勇気と学ぶ姿勢そして生きがいを与えてくださったのだと思います。これを私に担当させて下さった平田校長先生をはじめ竜洋の教育関係の方々に深く感謝しています。

多目的ホールが完成した当時の先生方は、このような絵にまつわるエピソードのことをご存じだったでしょうし、記録もあったと思います。しかし、長い年月の間に、絵のことを知る方もいなくなり、記録も失われてしまったようです。学校宛にいただいた一本のお電話から、この絵のことが詳しく分かり、作者の佐野敬子さんが絵に込めた願いも知ることができました。これからも学校の宝として大切にしていきたいという思いも新たにしました。

「ひとりひとりの生徒が、目的を持って大空に向かって真直ぐに伸びて行くように」という佐野敬子さんの願いを皆さんが受け止め、夢や目標に向かって中学校生活を充実したものにしてくれれば嬉しく思います。